

特集：設備事例—人々の生活によりそう

浜頓別町立図書館

— 町民誰もが利用しやすい図書館をめざして —

武田 祐介



所在地：北海道枝幸郡浜頓別町中央南7
 図書館延べ床面積：734.49㎡
 浜頓別町の人口：3,464人（令和3年10月現在）
 浜頓別町の面積：401.64km²

まちの紹介

浜頓別町は北海道の宗谷管内に位置するオホーツク海に面した人口約3千5百人の町です。東西28.2km、南北24.2km、総面積は401.64km²で、そのうち72.7%が山林、原野という豊かな自然環境に恵まれています。

町内には野鳥がたくさん集まり、ラムサール条約湿地に登録されている「クツチャロ湖」や北オホーツク道立自然公園の中心地である「ベニヤ原生花園」, 「神威岬（斜内山道）」などがあります。

本町では広大な土地を利用した草地酪農を主とした農業をはじめ、サケ、マス、毛ガニ、ホタテ貝の漁獲を主体とした漁業、地場産物を原料とする製造業（水産加工業、乳製品製造業）などが営まれています。

図書館の紹介

浜頓別町立図書館は昭和50年に役場庁舎として利用されてきた建物を再利用し、蔵書1,500冊ほどでスタートしました。その後、平成元年に鉄道が廃止され、平成2年に新たにバスターミナルが建設されたことに伴い、バスターミナルの2階に図書館が移設されました。

図書館の抱える課題

図書館は建物の2階に設置されていますが、エレベーターがないため、図書館を利用するためには階段を上する必要があります。そのため、高齢者や足の不自由な方から図書館を利用しにくいとの声が出されており、「建物の2階の図書館」は町として長年の課題としながらも開館から30年近くが経過していました。その他にも、図書館を利用す

るためにはスリッパに履き替える必要があったことや、図書館としての床面積は広いとは言えず、ワンフロアの狭い中で閲覧スペースと幼児スペースを配置せざるを得ない状況であり、静かな環境で読書や勉強をしたい利用者にとって利用しにくく、一方で子ども連れの方も周りに気を使いながら利用せざるを得ない環境となっていました。

道の駅オープン

転機が訪れたのは浜頓別町において町民の交流の場となる複合施設の建設が議論されるようになったことでした。図書館がその施設に入れることも検討されましたが、結果として図書館は移動せずに、道の駅機能、バスターミナル機能を有する複合施設が建設されることになりました。バスターミナルが移設されることとなり、図書館にとっては建物の1階が空くこととなったため、町として図書館機能を建物の1階にまで拡充することを決定しました。複合施設は令和のスタートとなる令和元年5月1日に浜頓別町交流館「道の駅北オホーツクはまどんべつ」として供用が開始されました。

図書館のリニューアルに向けて

建物の1階に図書館機能を拡充することが決まったから、教育委員会内部でどのような図書館とすべきか、新たなレイアウト案の検討を始めました。

浜頓別町には高校が1校あり、近隣の自治体からの通学生も多いため、バスターミナルの2階に設置されている図書館をバスを待つために利用する高校生もいました。そのため、地元の中高生にアンケートを行い、中高生のニーズを調査することとしました。中高生からは「雑誌を増やしてほしい」、「飲食できるスペースを作ってほしい」、「落